

2026 年 9 月 29 日

報道機関 各位

長崎大学病院、外来駐車場の混雑緩和に向けて

職員用駐車場を外来患者さん向けに転換・正面玄関横を車寄せスペースとして整備

長崎大学病院は、外来患者さんや付き添いの方が利用する駐車場の混雑緩和を目的として、院内の職員用駐車場を外来患者用駐車場へ転換し、2026 年 10 月 1 日（木）から供用を開始します。

下記マップの赤色で示した区画には、これまで職員用駐車場 54 台および身体障害者用駐車区画 9 台が設けられていました。このうち職員用駐車場 54 台分を外来患者用の駐車場へ転換し、既存の身体障害者用駐車区画 9 台分と合わせて、計 63 台分の外来患者さん用駐車場として運用します。

また、下記マップの黄色で示した正面玄関横の歩行困難者専用駐車場 7 台分については、より多くの方が送迎時に利用できるよう、病院利用者の乗降を目的とした車寄せスペースに変更し、2026 年 10 月 5 日（月）から運用を開始します（詳細は次ページをご覧ください）。

取材をご希望の報道機関の皆さまは、下記お問い合わせ先までご連絡ください。

■ 駐車場に関するマップ



【本リリースに関するお問い合わせ先】

長崎大学病院 総務課（広報・評価・国際）

TEL : 095-819-7790 MAIL : mhweb@ml.nagasaki-u.ac.jp

■ 外来駐車場の混雑状況

当院では、外来駐車場の混雑や入庫待ちについて、患者さんから「駐車場に入れず予約時間に間に合わない」「空くまでの時間が分からない」「駐車までに1時間ほどかった」などのご意見が寄せられていました。

2026年1月から3月までの診療日58日間の調査では、第1駐車場は全58日すべて、第2駐車場は50日、第3駐車場は47日において満車となりました。第1駐車場から院外まで車列が延びる渋滞も24日発生し、調査期間中の4割以上で確認されました。

■ 外来駐車場の拡充による混雑緩和



赤線：とまと薬局前交差点付近まで続いた場合の滞留車両 約28台

青線：ダイアパレス前まで続いた場合の滞留車両 約52台

※1台あたり5m換算

渋滞発生時の滞留車両は、病院下の三叉路（とまと薬局前交差点付近）まで続いた場合で約28台、山王通りまで続いた場合で約52台分と試算しています。今回新たに確保する54台分は、この約52台の車列に相当する規模です。特に混雑する午前中に、これまで道路上で入庫を待っていた車両を新たな外来駐車場へ誘導することで、病院構内や周辺道路における渋滞の緩和を図ります。

なお、外来駐車場の整備により54台分が増える一方、正面玄関横の7台分を車寄せスペースに変更するため、外来駐車場全体では差し引き47台分の増加となります。駐車可能台数は全体で、439台から486台となり、約10.7%増加します。

■ 駐車場に関するマップ



■ 外来患者用に転換する駐車場の概要

- 供用開始日：2026 年 10 月 1 日（木）
- 新たに確保する駐車区画：54 台
- 既存の身体障害者用駐車区画：9 台
- 駐車場全体：63 台
- 場所：被ばく医療総合研修センター前
- 用途：外来患者さんなど病院利用者向け駐車場

本駐車場は、被ばく医療総合研修センター前にあった職員用駐車場を外来患者用へ転換して整備するものです。入庫と出庫の経路を分け、限られた院内スペースを有効活用しながら、車両が滞留しにくい運用を図ります。

■ 車寄せスペースの概要

- 供用開始日：2026 年 10 月 5 日（月）
- 場所：長崎大学病院正面玄関横
- 用途：送迎車による病院利用者の乗降
- 主な対象：車椅子利用者、歩行に不安のある方、付き添いを必要とする方など
- 利用方法：乗降後、送迎車は速やかに移動し、長時間の駐車は行わない運用

正面玄関横の歩行困難者専用駐車区画 7 台分を、送迎車の乗降を目的とする車寄せスペースへ変更します。利用者が正面玄関付近で乗り降りした後、送迎車が速やかに移動することで、限られたスペースをより多くの方に利用していただくとともに、構内における車両の円滑な通行を促します。

■ 経営担当副病院長 室田教授 コメント

「当院では、外来駐車場の混雑が患者さんの受診環境だけでなく、病院周辺道路の交通にも影響を及ぼしていることを重要な課題として捉えてきました。

今回整備する駐車場は、新たに 54 台分の駐車区画を確保するものであり、慢性的に発生している入庫待ち渋滞の緩和が期待されます。また、正面玄関横に車寄せスペースを設けることで、高齢の方や歩行に不安のある方を含め、より多くの利用者にご活用いただける環境を整えました。

患者さんやご家族の利便性向上はもちろんのこと、近隣住民の皆さまへの交通負荷軽減にもつながるよう、今後も安全で円滑な病院運営に努めてまいります。」